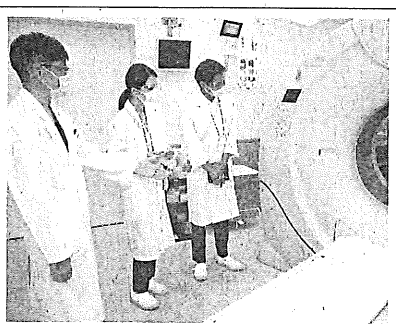
40729 下野新聞

医療機器社員、現場学ぶ

獨協医大 初のリカレント教育

獨協医大は2022年度、社会人が必要な知識や技能を学び直す「リカレント教育」に初めて取り組む。医療機器製造のキヤノンメディカルシステムズ（大田原市）と連携し、初回は26～29日に社員4人が参加。27日は獨協医大病院で病院実習を行い、自社の医療機器が現場でどう使われているかを学んだ。



獨協医大病院の放射線技師（左端）からCT装置の説明を受ける参加者＝27日午後、壬生町北小林

同大の地域貢献事業の一環。22年度は計3回実施予定で、いずれも同社の社員を対象に行う。

初回は、製品の販売戦略や企画の立案を担当する入社3年目の4人が参加した。同病院ではCTや血管撮影装置などで同社の製品を利用。参加者は検査や治療が行われている様子を見学し、スタッフから機器の活用状況などについて説明を受けた。

杉田大貴さん(27)は「製品の使われ方を実際に見る機会は少なく、貴重な経験だった」と振り返った。山田亜由葉さん（24）は「医療従事者から製品の特徴や課題を具体的に聞けたことは大きい」と話した。

同大では8月と10月に同様の内容で開催予定。今後は同社以外の企業でも、要望があれば連携し教育に取り組むという。（東山聡志）